

平成22年12月期 第3四半期決算のご報告

カルナバイオサイエンス株式会社

 4572

ビオチン化キナーゼ蛋白質の販売開始(2010年10月より)

表面プラズモン共鳴(SPR)やバイオレイヤー干渉法(BLI)といった物質間の相互作用を評価する系(解析機器)でご利用いただけるビオチン化キナーゼ蛋白質の販売を開始いたしました。

上記のSPRやBLIなどの解析機器で低分子化合物の創薬研究・開発を行なう際に、リガンドとする標的分子蛋白質を活性、構造を保持したままセンサー表面に固定化(固相化)することはとても難しいことです。当社はこれまで300を超えるキナーゼ種を自社製造してきた上で培ったノウハウを元に下記の特長をもつビオチン化キナーゼ蛋白質の開発成功にいたり、まず21種類の製品を販売する運びとなりました。



Live-cell Kinase Assaysの受託代理店業務の開始

(2010年10月より)

カルナバイオサイエンスは、米国Advanced Cellular Dynamics(ACD)社が開発したセルベースチロシンキナーゼアッセイパネルを用いたプロファイリングサービス受託の代理店業務を開始しました。

本サービスでは、ヒトチロシンキナーゼを発現させた細胞を用いて、それぞれのチロシンキナーゼに対する化合物の阻害作用を明確にすることができます。細胞内でのキナーゼ阻害作用を研究するのに最適です。

市場最大、52種のチロシンキナーゼがアッセイ可能！

アッセイ可能なキナーゼ (Tyrosine Kinase 52種)

ABL (BCR-ABL)	EphB2	FMS (CSF1R)	LYN	TIE1
ALK	EphB4	FRK	MER (MERTK)	TIE2
ARG (ABL2)	FAK	HCK	MET	TRKA (NTRK1)
BLK	FGFR1	IGF1R	PDGFRa	TRKB (NTRK2)
BMX	FGFR2	INSR	PDGFRb	TRKC (NTRK3)
CCK4 (PTK7)	FGFR3	JAK1	RET	TYK2
EphA1	FGFR4	JAK2	RON (MST1R)	TYRO3
EphA3	FGR	JAK3	ROS (ROS1)	ZAP70
EphA4	FLT1	KDR	RYK	
EphA5	FLT3	KIT	SRC	
EphB1	FLT4	LCK	SYK	

TCGライフサイエンス社と 創薬サービスで戦略的業務提携

(2010年10月12日 プレスリリース)

カルナバイオサイエンス社とTCGライフサイエンス社は、世界の製薬企業やバイオテック企業に対して、キナーゼをターゲットとした高付加価値型創薬サービス(※)を共同で提供することについての戦略的な業務提携を行うことで合意いたしました。

※ 高付加価値型創薬サービスとは、カルナバイオサイエンス社が得意とする「広範囲なキナーゼに対するハイスループット・スクリーニングやプロファイリングパネルなどのキナーゼ創薬に関する基盤技術」と、TCGライフサイエンス社が得意とする「総合的な創薬研究開発サービス」を組み合わせ提供するシームレスな創薬サービスのことをいいます。

TCGライフサイエンス社の概要

- (1) 名称: TCG Lifesciences Ltd.
- (2) 代表者: Managing Director Mr. Swapan Bhattacharya
- (3) 所在地: Block BN, Sector V, Salt Lake City, Kolkata, India
- (4) 設立年月日: 1998年8月3日
- (5) 事業内容: 創薬及び臨床開発の受託サービス

(百万円)

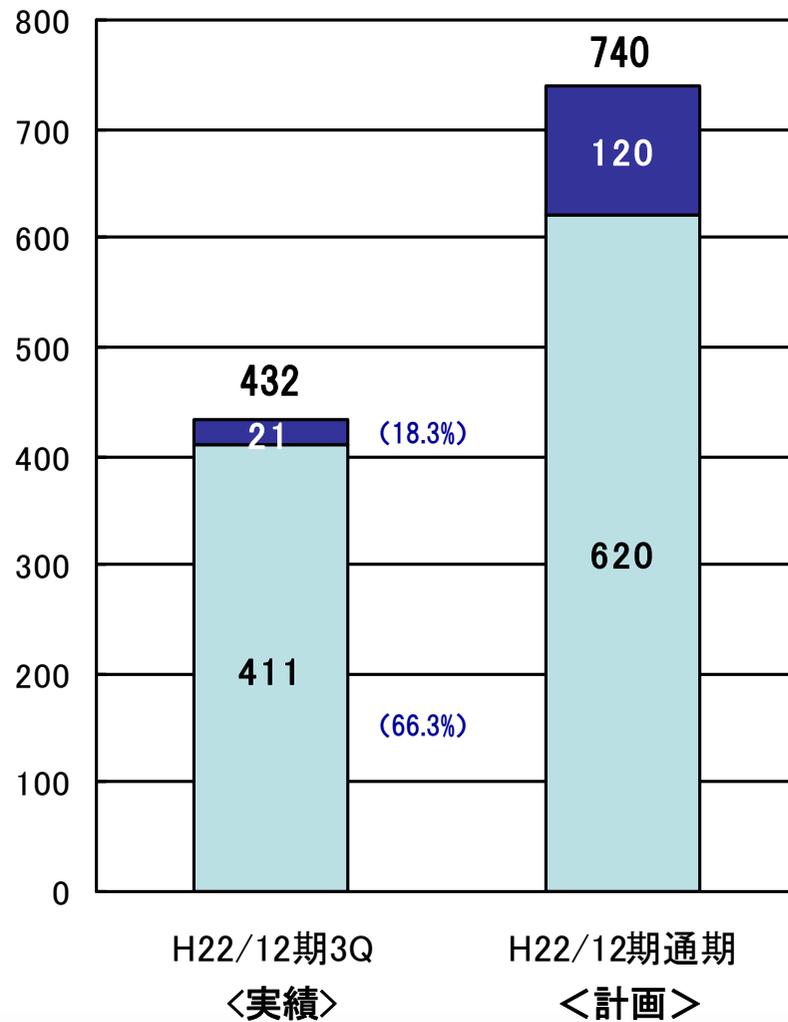
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期 第3四半期連結累計期間	501	△229	△226	△189
2010年12月期 第3四半期連結累計期間	432	△300	△269	△296
2010年12月期 通期計画値	740	△344	△315	△344
対前年同期比	△68	△70	△43	△106
対通期計画 進捗率 (%)	58.5	—	—	—

(注)対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(単位:百万円)

	2010年12月期 第3四半期累計期間	2009年12月期 第3四半期累計期間	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△266	△377	110
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 42	70	△113
財務活動による キャッシュ・フロー	53	81	△ 28
増減額	△256	△223	△ 33
現金及び 現金同等物の残高	1,233	1,208	25

(百万円)



■ 創薬事業

共同研究の進捗に伴う収入を計画通り計上。

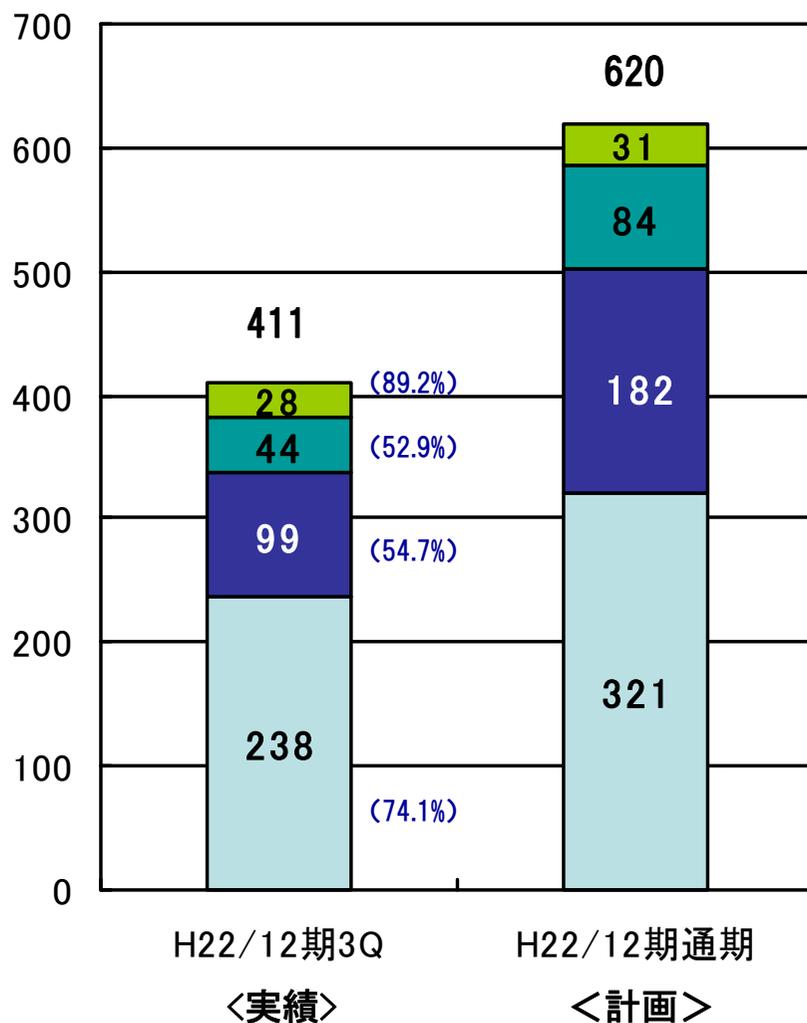
□ 創薬支援事業

国内・海外のプロファイリング・サービス、国内のキナーゼタンパク質の売上が計画通りに推移。

欧米向けのキナーゼタンパク質の販売が、製薬企業の再編に伴う予算執行の停滞、円高の影響等により計画を下回る。

※ ()内は通期計画に対する進捗率

(百万円)



■ その他
概ね計画通り。

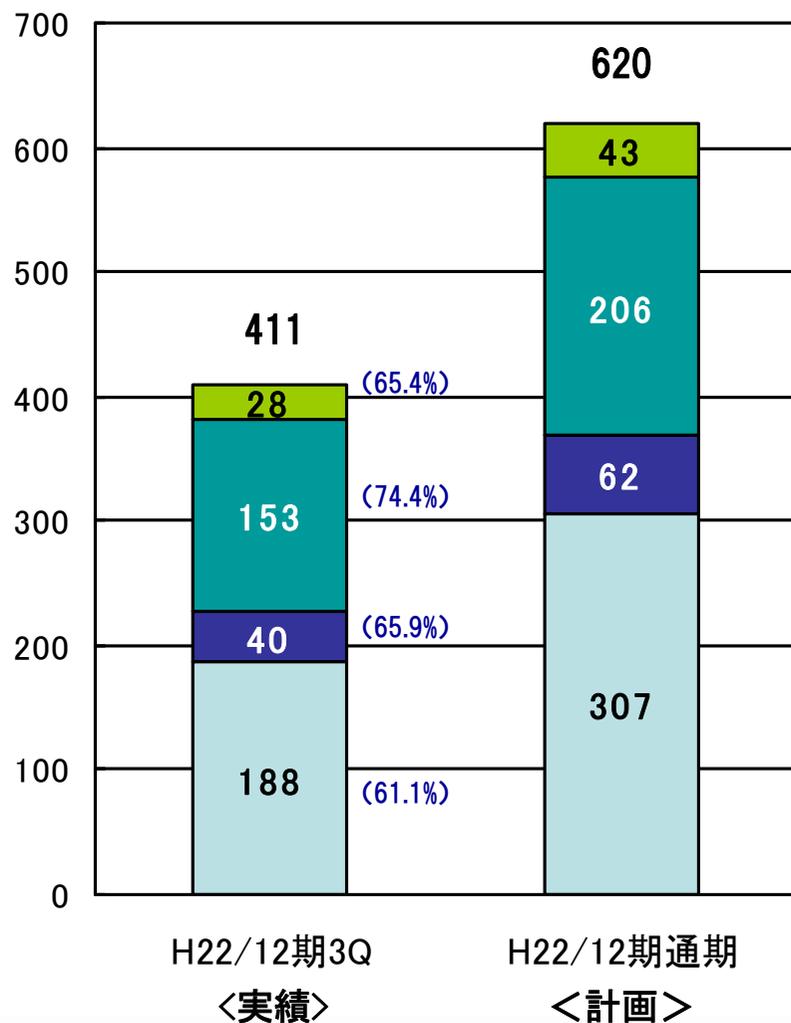
■ 欧州
製薬企業の再編の影響を受け計画を下回るが、今後回復の兆しあり。

■ 北米
大手・中堅製薬企業の予算執行の停滞により計画を下回るが、今後回復の兆しあり。

□ 日本
キナーゼタンパク質、スクリーニング・プロファイリングが概ね計画通り。結晶構造解析サービスが好調。

※ ()内は通期計画に対する進捗率

(百万円)



■ その他

概ね計画通り。

■ プロファイリング・スクリーニング

概ね計画通り。

■ アッセイ開発

米国・欧州でほぼ計画通り。一方国内の大口顧客からの注文が見込みを下回る。

■ キナーゼ タンパク質

主に大手・中堅製薬企業の予算執行の停滞により計画を下回る。

※ ()内は通期計画に対する進捗率

(百万円)

		2010年3Q末	2009年12月末	増減額
流	動 資 産	1,517	1,760	△242
	現金及び預金	1,003	1,290	△286
※	有 価 証 券	300	200	100
	そ の 他	213	269	△55
固	定 資 産	226	283	△57
資	産 合 計	1,743	2,043	△300
負	債 合 計	262	242	19
純	資 産 合 計	1,481	1,801	△319
負	債・純資産合計	1,743	2,043	△300

※有価証券は、リスクの極めて低い運用商品です

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/japanese/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。